



第86号

July 2021

編集・発行

社会福祉法人
沖縄県社会福祉事業団〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1
TEL.098-884-3173 (代) FAX.098-882-5688✉ o.fukusi@okinawa-j.jp
🌐 http://www.okinawa-j.jp/

名護市からの地域包括支援センター事業の受託に向け、前年度から在宅介護支援センター事業を受託し、準備を進めて参りました。今年度4月より、念願であった地域型地域包括支援センター事業を受託し、「名護地区地域型包括支援センター名護厚生園」として開所することになりました。主な業務内容は、①高齢者等に関する様々な相談に対して幅広く総合的に対応し、適切な支援機関、制度・サービス等に繋ぎ、多職種と連携を図りながら支援する総合相談。②高齢者が安心して生活できるように消費者被害、成年後見制度、高齢者虐待等、高齢者の権利を護る為の支援を行う権利擁護。③高齢者等や家族が安心して生活できるよう、社会資源を適切に活用し、多様な課題に向けて支援する包括的・継続的ケアマネジメント。④要支援1・2の方、総合事業で事業対象者と認定を受けた高齢者に対して、自立した日常生活を継続できるよう支援する介護予防ケアマネジメント。⑤名護市高齢者福祉サービスの申請対応、地域にお住まいの高齢者の見守り訪問等を行い必要な支援に繋げるための介護予防把握。以上の業務を保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー等がそれぞれの専門性を活かし、連携して支援にあたります。また介護をはじめ、医療・保健などの関係機関とも連携し、高齢者の悩みや困りごとにお応えして高齢のみなさんが住み慣れた地域でいつまでも安心した生活が送れるようにサポートし、地域の高齢者福祉の向上に努めています。

養護・特別養護老人ホーム
名護厚生園
園長 宮里 淳
みやざと じゅん



「名護地区地域型包括支援センター」
開所しました



令和2年度事業実績報告の主な内容

1 利用者に対する姿勢

(1) 人権の尊重

①各施設は、倫理綱領自己チェック等を経て施設倫理委員会を年2回開催。各施設報告から事務局が審議内容や課題への対応について確認したところ、課題対応が不十分な施設もあることから、同類施設での対応等の情報も共有しながら課題解決の場を計画したが、新型コロナウイルス感染防止のためその場を設けることができず課題が残った。

②事務局は、月単位で各施設の苦情・要望等の内容を把握し対応策を確認。対応不十分な場合は追加対応を施設と検討し実施した。これまでには各施設での苦情・要望等の件数のみを法人内施設で共有してきたが、今後は個人情報には配慮して法人内施設間で苦情・要望等の内容を共有することで、各施設が事前に対応し苦情に至ることがないよう努めたい。

(4) 生活環境・利用環境の向上

①沖縄療育園の全面改築に向けては、家族会役員と意見交換会を開催し家族会側の要望等を聴取した。

2 社会に対する姿勢

(1) 地域における公益的な取組

①名護厚生園は、地域の高齢者福祉への新たな取組として令和3年度からの高齢者の地域包括支援センターの受託を見込み、在宅介護支援センターの運営業務を名護市から受託し、地域の高齢者福祉の向上に寄与した。

②漲水学園を卒園した児童の社会的自立支援の継続、また生活困窮世帯児童の学習支援を行った。

3 人材に対する姿勢

(1) ドータル的な人材マネジメントの推進

①各施設の家族会等で構成する運営協議会を7月に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のためアンケート方式で法人及び施設に対する要望を確認した。各委員からは、各施設のコロナウイルス対策の状況確認、施設改築の際の家族会の声の聴取、職員配置増などの要望があり、その内容を経営対策監会で共有を図り、回答を要するものについては施設長や事務局が対応した。

②具志川厚生園の特別養護老人ホームと訪問介護事業所にて第三者評価を受審した。特養では「利用者の家族等との連携について、家族代表で構成された運営協議会で意見や要望等を聞く機会が確保され適正な支援に結びついている」、訪問介護事業では「利用者を尊重する姿勢が明示され利用者

等から意見が述べやすい環境が整備されている」と評価された。改善点は、特養及び訪問介護で「利用者の権利侵害の防止等に関する取組の徹底」が挙がった。

(3) 社会・地域との関係の継続

①名護厚生園にて、名護市から在宅介護支援センター運営業務を受託し、地域の高齢者の相談窓口となり、必要なサービス資源の開拓や関係機関へ繋がるなど地域で安心して生活できるよう支援を行った。

4 マネジメントに対する姿勢

②業務標準書については、内容の修正課題が挙がっていることから、まだ職員へ周知徹底することが弱いため、次年度は種別施設の各課長を中心内容の修正を図り活用できる業務標準書の策定を目指す。

③生産性の向上に繋がる先進的な技術等の導入について、名護厚生園のICTによる記録の自動化の構築、都屋の里のイノカムや具志川厚生園のお掃除ロボットの活用を行い業務改善に繋げた。

(1) 法令遵守の徹底

①社会福祉関係法令、労務関連法、虐待防止等の適切な理解を促進するための職場内勉強会の実施、遵守の重要性の啓発を行った。特に新型コロナウイルス感染防止策・関係機関からの補助等の周知についての情報収集を強化し、施設運営への活用を図った。

(2) 組織統治の確立

①理事会は予定どおり開催できたが、評議員会については新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面での開催となつた。理事と監事の関係性については、通常業務の執行状況確認・必要に応じた内部監査でのチェック機能を果たした。

②各施設担当理事を中心とした施設種別監査会議、経営対策監会議が新型コロナウイルス感染防止のため継続的に実施できなかつたが、実績会議については施設議にて共有を図った。新型コロナウイルスの影響で職員の健康と安全の確保・腰痛防止・メンタルヘルス対応等の予防策を講じるための研修は実施できなかつた。②パワー・ハラスメント等の防止策・対応策を適切に講じるため、オンライン及びDVDによる管理職研修を2回実施した。

(4) 人材育成

①働き方の指針・業務標準書の評価を活用したOJT研修の強化については、評価・面談面で不十分な面があり研修強化に繋がらなかつた。

②各職層の抱える課題・各職員の仕事力の把握が難しく、課長職・指導職層の育成を重視した取組、各職層がキャリアアップできる体系的な研修プログラムの構築ができなかつた。

②働き方の指針・業務標準書の評価を活用したOJT研修の強化については、評価・面談面で不十分な面があり研修強化に繋がらなかつた。

(4) 経営管理者の役割の遂行

①特に令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大があつたことから、自施設の感染リスク管理にあたると共に、課題が発生した場合は管理者としての責任を持ち対応する姿勢を強く打ち出し解決にあたるよう努めた。



令和2年度 令和元年度 決算報告

資金収支計算書

(自)令和2年4月1日 (至)令和3年3月31日 (単位:千円)

勘定科目 大区分		決算額
事業活動	事業活動収入計	4,387,544
	事業活動支出計	4,168,985
	事業活動資金収支差額	218,559
施設整備等	施設整備等収入計	9,316
	施設整備等支出計	73,547
	施設整備等資金収支差額	△ 64,230
その他の活動	その他の活動収入計	71,305
	その他の活動支出計	226,253
	その他の活動資金収支差額	△ 154,948
当期資金収支差額		△ 619
前期末支払資金残高		1,126,049
当期末支払資金残高		1,125,429

事業活動計算書

(自)令和2年4月1日 (至)令和3年3月31日 (単位:千円)

勘定科目 大区分		決算額
サービス活動	サービス活動収益計	4,372,332
	サービス活動費用計	4,241,211
	サービス活動増減差額	131,121
サービス活動外	サービス活動外収益計	15,212
	サービス活動外費用計	1,303
	サービス活動外増減差額	13,909
経常増減差額		145,030
特別増減	特別収益計	22,419
	特別費用計	14,977
	特別増減差額	7,442
当期活動増減差額		152,472
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額	2,622,224
	当期末繰越活動増減差額	2,774,696
	基本金取崩額	0
	その他の積立金取崩額	11,399
	その他の積立金積立額	200,000
次期繰越活動増減差額		2,586,096

貸借対照表

令和3年3月31日現在

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
科目	当年度末	科目	当年度末
流動資産	1,370,056	流动負債	381,100
		固定負債	378,965
徴収不能引当金	△ 202	負債の部合計	760,066
固定資産	8,653,013	純資産の部	
基本財産	6,007,747	基本金	10,000
		国庫補助金等特別積立金	4,688,927
		その他の積立金	1,977,980
その他の固定資産	2,645,265	次期繰越活動増減差額(うち当期活動増減差額)	2,586,096 (152,472)
		純資産の部合計	9,263,003
資産の部合計	10,023,069	負債及び純資産の部合計	10,023,069

新型コロナウイルス感染症が広がり1年が経ちましたが、収束の兆しも見えない状況がある中で、沖縄療育園でも医療従事者への新型コロナワクチン接種が行われました。今回の新型コロナワクチン接種は初めての取り組みであり、平安山園長・小橋川事務長をはじめ、当園の医師を中心に接種までの確認作業として、初めにワクチンの接種・取扱い・溶解方法の確認、接種後の副反応(アナフィラキシー)への対応等の研修会を実施しました。次に接種場所の設定と被接種者名簿の作成(1日12名程度)を行い、接種当日のタイムスケジュールを確認しました。その後でワクチン接種を午後に実施するため、日々課の調整を行い、午前の入浴へと変更しました。

1回目は殆どの職員に副反応はありませんでしたが、2回目の接種後は多くの職員に発熱や倦怠感、接種部位の痛み等の症状がありました。しかし、接種後の副反応を考慮して勤務調整を行っていた為、業務への影響は殆どありませんでした。

「コロナウイルスを持ち込まない、利用者がワクチン接種に協力してくれたことに感謝したいと思います。利用者へのワクチン接種は接種順位の制度上、もう少し先になりますが、これからも感染対策を徹底し、感染者がいないよう取り組んでいきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症が広がり1年が経ちましたが、収束の兆しも見えない状況がある中で、沖縄療育園でも医療従事者への新型コロナワクチン接種が行われました。今回の新型コロナワクチン接種は初めての取り組みであり、平安山園長・小橋川事務長をはじめ、当園の医師を中心に接種までの確認作業として、初めにワクチンの接種・取扱い・溶解方法の確認、接種後の副反応(アナフィラキシー)への対応等の研修会を実施しました。次に接種場所の設定と被接種者名簿の作成(1日12名程度)を行い、接種当日のタイムスケジュールを確認しました。その後でワクチン接種を午後に実施するため、日々課の調整を行い、午前の入浴へと変更しました。

1回目は殆どの職員に副反応はありませんでしたが、2回目の接種後は多くの職員に発熱や倦怠感、接種部位の痛み等の症状がありました。しかし、接種後の副反応を考慮して勤務調整を行っていた為、業務への影響は殆どありませんでした。

「コロナウイルスを持ち込まない、利用者がワクチン接種に協力してくれたことに感謝したいと思います。利用者へのワクチン接種は接種順位の制度上、もう少し先になりますが、これからも感染対策を徹底し、感染者がいないよう取り組んでいきたいと思います。

ご寄贈 いただきました

キャンプフォスター教会部様より、うるま婦人寮へ日本円で37万3,930円の小切手のご寄付を頂きました。今後も入所者や、入所者の同伴児が自立に向かって生活を営むことが出来るような支援に活用させて頂きます。心より感謝申し上げます。



本年度4月より、八重山厚生園の管理課長として就任いたしました新城でございます。今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。

令和2年度国第二次補正予算に取組まれた、新型コロナウイルス感染症PCR検査強化事業は、介護サービス事業所等での感染発生・拡大を未然に防ぎ、介護従事者の皆様が安心して従事していただく目的として取組がなされ必須の事業として認識致しております。

当園では、令和2年度に2回、令和3年度においても6月時点で2回のPCR検査を実施いたしました。本事業が今後とも継続した取組みとして行われることを願います。



看護課長
仲間 なかも
よしひろ



八重山厚生園
管理課長
新城 佳一
あらしろ よしかず

新型コロナウイルス感染症の PCR検査・ワクチン接種を実施

新任職員研修を受講して

4月16日（金）、令和2年度・3年度採用職員を対象とした「新任職員研修」をオンラインにて開催いたしました。金城理事長による講話と、特別講師として山崎正徳氏（AIDER'S代表）による「対人援助職に求められるバウンダリー（境界線）の理解と対応」についてご講話いただきました。受講者の声を紹介します。



よみたん救護園
介護員

岸良 紗里
きしら えり



金城理事長による講話



山崎正徳氏による特別講話



特別養護老人ホーム宮古厚生園
介護支援専門員
なかむら ひろみ

仲村 博臣
なかむら ひろみ

特別研修で学んだバウンダリー（境界線）の理解と対応について、自分と他人を区別する人間関係の境界線や別の人格で別の価値観を持つていていう健康的な人間関係の距離感、人間性や考え方を尊重でき摩擦が起ころづらい理想の人間関係は、バウンダリーが守られていれば感情的になる必要もなく相手を責めめる必要がないということを学びました。一緒に働く同僚との境界線や使用者との境界線を保つことで、お互に良い関係を作ることができると仕事に活かせるようがんばります。この研修でとても大切なことを

今回の研修は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年とは違いZoomを活用したオンラインでの研修受講という形で開催されました。はじめに、金城理事長より、沖縄県社会福祉事業団についての講話があり、設立から現在に至るまでの背景を知り、沖縄県の社会福祉分野において一役を担ってきた長い歴史があることを知りました。

次に、AIDER'Sの山崎代表による対人援助職に求められるバウンダリー（境界線）の理解と対応について特別研修があり、人それぞれの人格や価値観の違いを理解し、尊重することの大切さ、正しい人間関係を築く上でのストレスとの向き合い方など、改めて考えさせられました。

今回の研修を通して学び知りえたことを活かし、入所者の皆様への介護支援に繋げていきたいと思います。

当園では、これからも子どもたちの心に寄り添いながら、健やかに成長出来るよう職員一同力を合せて参りますので、引き続き皆様の温かいご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い致します。

障害者支援施設 漢水学園の園長室は、子どもたちと同じ生活空間にあり、一日を通して子どもたちの元気な声が聞こえます。そのため、静かな時は少し不安になり「子どもたちはどこで何をしているんだろう」と園長室のドアを開け思わず探してしまいます。また、仕事の合間に見て出来るだけ子どもたちに声をかけ、一緒に遊んだりしているお陰で、少し若返ったような気がしていますが気のせいでしょうか。

さて、当園においては、より家庭に近い環境で子どもたちを養育するという家庭的養護が担えるような小規模グループケア施設への転換が求められており、早期実現を目指します。

また、退園し就職、進学する子どもたちに対し、各種支援制度や多くの企業、個人からの寄付、及び当法人が創設した社会的自立支援基金の活用により、経済的負担の軽減を図りながら自立を支援していきます。そして、社会から孤立し目標半ばで挫折しないようアフターケアにも力を入れていきます。

この度、あけぼの学園園長に就任しました嵩里と申します。昨年3月に宮古島市役所高齢者支援課課長を以つて定年退職しました。

平成12年4月にスタートした介護保険制度、平成10年4月より介護保険担当、途中他課への異動はありませんが、延べ17年間介護保険に携わってきました。平成27年より始まった「ICTを活用した介護サービスの産業化を通じたまちづくり事業」では市役所での担当となり、宮古厚生病院では大変お世話になりました。

障害福祉分野に携わるのは初めてで、利用者の年代層も10代から70代と広く、個々への対応も異なっています。それに対応している職員のスキルの高さを感じました。

今回利用者に接して繊細な感覚を持ち合わせ、障害者総合支援法の第一条の二の基本理念に謳われている「障害の有無にかかわらず、等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人」の意味深さを感じています。

障害者支援施設 あけぼの学園

施設長就任あいさつ

児童養護施設 漢水学園 園長 砂川繁信 すながわ しげのぶ

この度、あけぼの学園園長に就任しました嵩里と申します。昨年3月に宮古島市役所高齢者支援課課長を以つて定年退職しました。